

小学校中学年用

放課後の教室で

## 放課後の教室で

「ヒロコちゃん、気にしてないの。昼休みのこと。」

くつ箱の前でアキコが声をかけてきた。昼休みにドッジボールをしてたときのことだ。外野から投げられたボールをヒロコがうまく受けられず、相手にとられてしまつたとき、「もう、しつかりしてよ。」とマユミがせめたてたのだ。いやな気持ちがしたが、ヒロコは何も言えずにうつむいた。こういうとき、自分の思つてゐることをなかなか言えない。小さなころからそうなのだ。

「あつ、今日、習いごとがあるんだつた。先、帰るね。」

そう言つてアキコはかけ出した。ふと見ると、アキコのランドセルにリコーグーが入れてある。ヒロコは足を止めた。

(リコーグー、教室だ。明日テストだから、持つて帰つて練習しないと。)

めんどくさいなと思ひながら、ヒロコは教室にもどつた。

放課後の教室はがらんとしていた。ヒロコがいそいで自分の席に向かおうとすると、何かが足に引っかかり、思わずこけそうになつた。マユミのつくえの横にかかつっていた体どう服入れだつた。

「あぶないなあ、もう。かけたらだめって言われてるのに。」

いらいらしながら、足にからんだ体どう服入れを取り、マユミのつくえにたたきつけた。ふと、足もとを見ると、えんぴつが落ちていた。ヒロコはため息をつきながらひろつた。名前が書いていなかつたが、とりあえずマユミのつくえに置いた。と、そのとき、ヒロコの頭を昼休みの出来事がよぎつた。かあつと頭に血が上つた。思わず、マユミのつくえいっぽいに、えんぴつでバツ印を書いた。  
(書いちやつた……。でも、マユミちゃんが悪いんだ。)

えんぴつをマユミのつくえに投げ出し、逃げるようになに教室からかけ出した。

(どうしよう。明日の朝、マユミちゃんがあれを見たら……。みんなが来る前に黙つて消しちゃおうか……。)

その夜、ヒロコはなかなかねむりにつくことができなかつた。

次の日の朝、ヒロコはいつもよりずっと早く家を出た。ドキドキする心ぞうの音を聞きながら、学校へと急いだ。校門が見えたそのとき、「ヒロコちゃん。」

「ふりむくと、マユミがかけよつてきた。」

「えつ、どうしたの。こんなに早く。」

「ちようじよかつた。昨日はごめんなさい。」

「……。」

「昨日の帰り、アキコちゃんに聞いたんだ。ヒロコちゃん、落ち込んでたつて。ごめんね。わたし、むちゅうになつて、きつく言つちゃつた。そういうこと、よくあるんだ、わたし。人のこと考えられなくて、本当にごめん。今度から、こんなことあつたら、言つてね。」

マユミの言葉に、ヒロコはただうなづくしかできなかつた。マユミは、ほつとした様子で、

「よかつた。昨日、アキコちゃんに言わ  
れてから気になつてしかたなかつた  
んだ。それで、今日一番にあやまろう  
と思って、早く学校に来たんだ。よ  
かつた、ちゃんとあやまれて。でも、  
ヒロコちゃんも今日は早いね。どう  
したの。」

マユミの言葉に、ヒロコの胸はドキン  
と鳴つた。マユミは不思議そうにヒロ  
コを見ていた。

(人のこと考えてなかつたのは、わたし  
の方だ……。)

「マユミちゃん……わたし……。」



○ あなたは、ヒロコがしたことについてどう思いますか。マユミやアキコについてはどうですか。友達と話してみましょう。

○ マユミの言葉を聞いたとき、ヒロコはどんなことを思った  
でしょう。

○ 友達と信頼し合い、助け合っていくために大切なことはど  
んなことだと思いますか。

### 3 小学校中学年用「放課後の教室で」 指導例

友達は、同じ世代に生きる者同士として、体験や話題、考え方などが似ていることが多い、成長するにしたがって、友達から受ける影響は強くなっていく。よい友達関係を築くことは、より豊かに生きるために重要であり、そのためには、互いを認め合い、様々な生活の場面を通して理解し合い、協力し助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切である。こうした友達との関係は、いわゆる「いじめ」を許容する雰囲気をつくらず、いじめを許さない心情を育む上でも基盤になるものといえる。

本資料には、思っていることをはつきり言えないヒロコ、逆にすぐに言ってしまうマユミ、その二人の間にいるアキコの3人の姿が描かれている。マユミの言動に不満を感じていたヒロコが、誰もいないところでついマユミの机に落書きをしてしまう行為を中心に、ヒロコの視点から描いており、互いに理解し合い、信頼し合える関係をつくるためには、どんなことが大切であるかについて考えられるよう作成している。学習の展開では、3人それぞれの言動や思いを俯瞰しながら、よい友達関係の在り方について考えることができるが、例えばヒロコの思いを中心に話し合うことを通して、自分たちの友達関係を振り返る展開も考えられる。

#### ◆ 主題名 友達だから 指導内容 中2－(3)

資料名 放課後の教室で (奈良県教育委員会)

#### ◆ ねらい

ヒロコをはじめ登場人物の言動や思いを考えることを通して、友達と互いに理解し合い、信頼し合える関係をつくるために大切なことについて話し合い、よい友達関係を築いていくこうとする意欲を高める。

#### ◆ 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1、友達について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 友達は、自分にとってどんな人ですか。</li><li>・一緒に遊んだり勉強したりする。</li><li>・困っているときに助けてくれる。</li><li>・いろいろと元気付けてくれる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達がいてよかったです感じたことを聞くこともできる。自分にとってどんな存在なのかを振り返っておくようとする。</li></ul>	
展開	2、資料「放課後の教室で」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"><li>○ ヒロコがしたことについてどう思いますか。マユミやアキコについてはどうですか。</li><li>・なかなか思っていることが言え</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・板書などを活用してそれぞれの言動を丁寧に振り返り、そこから考えられることや性格などについて</li></ul>	

		<p>ないヒロコの気持ちも分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰も見ていないところで落書きすることは許せない。</li> <li>・マユミは、気は強いが正直でちゃんと謝ることができる性格。</li> <li>・アキコは、どちらのことも心配して話しかけていてやさしい。</li> </ul> <p>○ マユミの言葉を聞いたとき、ヒロコはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしよう。あんなことしなければよかった。</li> <li>・わたしも謝らなくちゃ。</li> </ul>	<p>て話し合うようにする。自分に似ているのは誰かといった視点から話し合ったり、同じような体験を振り返ったりしてもよい。</p> <p>・誰も来ないうちに学校に行こうとしたヒロコの心情やマユミの率直な態度について考えることで、ヒロコが自分の弱さと向き合って思い悩む気持ちに共感できるようにする。</p>	
開	3、自分を振り返る。	<p>○ 友達と信頼し合い、助け合っていくために大切なことはどんなことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思っていることを互いにきちんと伝え合い、間違っていることを直し合えるようにすること。</li> <li>・アキコのように友達の立場になって考えたり、気付いたことを教えたりすること。</li> <li>・自分の言動が、知らず知らず友達を傷付けていないか振り返ること。</li> </ul>	<p>・登場人物それぞれの立場から、よりよい友達との関係づくりのためにすべきことを話し合うようにすることもできる。自分たちの友達関係や自分自身の課題についても振り返る機会としたい。</p> <p>・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。</p>	ワークシート
終末	4、「私たちの道徳 小学校三・四年」を開き、考えたり書き込んだりする。	<p>○ 「私たちの道徳」70~75ページを開きましょう。</p>	<p>・「私たちの道徳」を活用したり、導入で考えたことを振り返り、友情を育む上で大切にしたいことを考えたりするなど、よい友達関係を築いていくとする意欲を高めるようにする。</p>	「私たちの道徳」

※「私たちの道徳 小学校三・四年」は、次のURLよりダウンロードできます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm)

## 道徳ワークシート

名前（ ）

友達と信頼し合い、助け合つていくために大切なことはどんなことだと思いますか。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



小学校中学年用

公園のさく

## 公園のさく

「ヤスヒコ、今日も新池公園に集合な。」

ぼくの家の近所にある公園が新池公園だ。放課後にしようとつちゅう友達と集まつて遊ぶ。シーソーやブランコなどの遊具もおいてあつて、小さな子どももよく遊んでいる。うちのとなりの四さいのハルキ君は、ブランコが大のお気に入りで、よく乗つてゐるすがたを見かける。まあ乗り方を教えてあげたのはぼくなんだけどね。

家に帰つて、カードを持つて急いで公園に行つた。すでにビデオは着いていて、ぼくを待つていた。

「おそいで、ヤスヒコ。早く始めよう。」

さつそくぼくたちはカードゲームを始めた。最近、はやつているんだ。ゲームをしながらブランコの方を見ると、今日もハルキ君が来ているのが見えた。こつちを見て手をふつてる。ぼくも手をふり返した。

ひとしきりゲームをしたぼくたちは、休けい場所に行くことにした。休けい場所というのは、ぼくたちだけのひみつの場所で、実は公園と新池との間のさくの上なんだ。さくの上にこしかけると、新池からのですすしい風がふいてきて気持ちがいい。いちおう、「あぶないで登つてはいけません」と書いてあるんだけどね。そんなに高くもないし、乗りこえて池に入つてゐるわけでもないから大じょうぶ。

「あ、おつかいをたのまれてたのわすれてた。もう帰らないと。バイバイ、ビデオ。また明日も来ような。」

おつかいをすませて、ぼくが家でテレビを見ていると、仕事を終えたお母さんが帰ってきた。

「おかえり、お母さん。」

「ヤスヒコ、大変や。おとなりのハルキ君が公園でけがして救急車で病院に行つたで。」

え。ぼくはドキッとした。ついさっきまでハルキ君、元気に遊んでたのに。

「ハルキ君、新池のところのさくから落ちて頭を打つたらしいわ。なんであんなさくの所なんかに行つたんやろ。」

まさか。ハルキ君……。

「ヤスヒコ、どうしたの。何もしゃべらないで。」

お母さんが、じつとだまつているぼくを見て言つた。

「……お母さん……ぼく……。」



○ さくの上にこしかけて休けいすることを、ヤスヒコはどう考えていたでしょう。

○ ハルキ君のけがのことを聞いたヤスヒコは、どんなことを考えたでしょう。

## 4 小学校中学年用「公園のさく」 指導例

中学年の児童は、気の合う友達と遊ぶ中で行動範囲が広がり、自分たちで様々なことを決めるなどの傾向が見られる。こうした時期に、社会生活上のルールやきまりなどについて理解し、それらを遵守するよう指導することが大切である。本資料では、身近な公園にあるルールを取り上げ、そのルールがなぜ決められているのかということに初めて思い至る主人公の姿を描いている。ルールやきまりの意義について考える機会とすることはもちろん、ある行動を取ることで、その後どういう影響が考えられるかという想像力を働かせることは、道徳的判断力を育む上で重要であると考え、本資料を作成している。

展開前段では、ヤスヒコたちの思いを中心に、自分たちの楽しみのために深い考えもなくルールを破ったことや、自分たちの安全という視点からしかルールの意味について考えられなかつたために起こった出来事について、じっくりと話し合えるようにしたい。話合いを通して、社会生活上のルールやきまりの意義について考えを深めるとともに、それらを遵守することは社会生活における義務でもあるということを理解させることが大切である。また、展開後段では、身近な生活の中にあるルールやきまりについて振り返るようにし、それらがどうして決められているのか、守らなければどのようなことが起こると考えられるのかについて話し合い、規範意識を高め、道徳的判断力を培うようにしたい。

### ◆ 主題名 大切なきまり 指導内容 中4－(1)

資料名 公園のさく (奈良県教育委員会)

### ◆ ねらい

自分たちの楽しみのため、深い考えもなくルールを破ったことから起こった出来事と、それを知ったときのヤスヒコの深い後悔について話し合うことで、ルールやきまりの意義について理解し、それらを遵守しようとする態度とともに道徳的判断力を培う。

### ◆ 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1、公園を使うときのルールについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 公園を使うときのルールはありますか。</li><li>・ゴミは持って帰る。</li><li>・野球は禁止されている。</li><li>・自転車は決められた所にとめる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・実際に守っているかを振り返ることがねらいではない。ここでは出し合いでとどめ、展開後段での話合いにつなげるようにする。</li></ul>	
展開	2、資料「公園のさく」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 新池公園で遊び始めたとき、ヤスヒコはどんなことを思っていたでしょう。</li><li>・今日もゲームを楽しむぞ。</li><li>・今日もハルキ君、遊具で遊ぶのかな。</li><li>○ さくの上にこしかけて休けい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ヤスヒコの思いとともに、新池公園がどんな公園であるかなどの状況も併せてとらえられるようにする。</li></ul>	

		<p>することを、ヤスヒコはどう考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘密の場所なので、そこで休憩するのがとても楽しみ。</li> <li>・落ちてけがをするような失敗はしない。</li> <li>・池に入るわけじゃないからいいだろう。</li> </ul>	<p>あることや、さくはそんなに高くないこと、乗り越えて池に入ることはいけないと考えていることを押さえ、深い考え方や悪気なしにさくに上っていたヤスヒコたちの思いをとらえられるようにする。</p>	
展開	3、自分を振り返る。	<p>◎ ハルキ君のけがのことを聞いたヤスヒコは、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハルキ君、きっとぼくたちのまねをしたんだ。</li> <li>・まさかこんなことになるなんて。ぼくは、自分たちのことしか考えてていなかつた。</li> <li>・ぼくが、ちゃんときまりを守っていればこんなことは起らなかつたのに。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母の話を聞いて、じっと黙って思い巡らせているヤスヒコの気持ちを考えるようにし、無関係であると責任逃れをすることなく、想像もできなかつたことが自分のせいで起こったのではないかと恐れているヤスヒコの後悔と責任感に共感できるようする。</li> <li>・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。</li> </ul>	ワークシート
	4、「私たちの道徳 小学校三・四年」を開き、考えたり書き込んだりする。	<p>◎ 身の回りには、どんなルールがありますか。また、どうしてそのようなルールがあるのでしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園で野球が禁止されているのは、小さい子どもも安心して遊べるようにするためだろう。</li> <li>・自転車を決められた所にとめず、好きにとめると危ないだけでなく、いざというときに救急車なども入れなくなるからかな。</li> <li>・廊下を走ると、それを低学年がまねしてけがをするかもしれない。上の学年が気を付けないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入での公園のルールをここで振り返り、守らなければどのようなことが起こると考えられるかを想像するなど、それらルールの意義について具体的に話し合い、規範意識や道徳的判断力を高めるようする。また、実際にルールを守っているかについても振り返り、ルールを遵守しようとする態度を培うようする。</li> </ul>	
終末		<p>◎ 「私たちの道徳」118～121ページを開きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちの道徳」を活用したり、指導者の体験を話したりするなど、ルールやきまりの意義を考えて遵守しようとする思いを温めるようする。</li> </ul>	「私たちの道徳」

\* 「私たちの道徳 小学校三・四年」は、次のURLよりダウンロードできます。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm)

## 道徳ワークシート

名前（ ）

ハルキ君のけがのことを聞いたヤスヒコは、どんなことを考えたでしょう。

